

AST誌用 LaTeXスタイルファイルの使用上の注意

(項目Ⅱが守られていない場合には、投稿規定Ⅳ2(注5)に記されている掲載料の割引が適用されませんのでご注意ください。)

I. 本スタイルファイルによる出力の位置づけ

本スタイルファイルによって得られる書式は、あくまで刷り上りの目安を与えるものです。著者から提出された最終原稿に基づき、あらためて印刷業者が組版を行います。その組版の際に、スペース調整などが行われた結果として、提出原稿とはページ数が変わる可能性があることを予めご承知ください。(業者による組版システムはTeXではありません。ゆえに、著者が「TeXによって完璧な原稿を作成する」ことは必要とされていません。)

II. 使用の際のルール

本スタイルファイルを用いてLaTeXによる編集がなされた原稿については、「投稿規定Ⅳ2(注5)」に記されているとおり掲載料の割引が適用されます。ただし、以下のルールが守られていない場合には、印刷業者が組版する際の作業が煩雑になり、その結果として上記の掲載料の割引が適用されなくなります。どうぞ、以下のルールを遵守して下さるようお願いします。

なお、以下の(1)～(3)を遵守した結果として、図表の表示位置が著者の意図と異なる場合も考えられます。しかし、査読者は図表の位置を査読の対象とはしません。また、図表の位置は出版時に印刷業者によって最適化されます。

- (1) \vspace , \hspace などの位置調節を行うコマンドは、やむを得ない場合を除き極力使用しないでください。また、 list 環境における itemsep などのスペースを調整するオプションの指定も極力避けるようお願いします。
- (2) 図表フロートの位置指定は t , b , p のいずれかとしてください。
- (3) 図表は、それが初めて引用される段落の直後に挿入してください。
- (4) 記号類に和文フォントを使わないでください。代わりに、 amsmath パッケージを推奨します(スタイルファイルで自動的に読み込むようにしてあります)。

III. 推奨事項

発音記号に関しては、印刷業者では tipa に対処しています。そこで、著者としても、 tipa で原稿を作成されることをお勧めします。

IV. 本スタイルファイルで追加された機能

本スタイルファイルでは、従来のスタイルファイルから以下の機能が追加されました。

- (1) \profile コマンドにより、著者紹介(オプション)も原稿に含めることができるようになりました。ただし、著者紹介の資料(紹介文、写真)の提出は、論文が掲載可能となった後の最終原稿の提出時です(査読用に提出する原稿には、著者紹介はつけないでください)。なお、このコマンドによる出力時には、顔写真用のスペースが確保されます。しかし、紹介文が短い場合には、そのスペースが完全に確保されないことにご注意ください。
- (2) \covering コマンドにより、投稿原稿の表紙が作成できるようになりました。このコマンドは、原稿内に現れる図・表および原稿ページ数のカウンタを参照して、表紙に表示するものです。それゆえ、 $\text{\end{document}}$ の直前に挿入してご利用ください。(プリントアウトの順では、一番最後に出力されます。しかし、投稿時には、表紙として一番最初に添付してください。)